

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面 110 円、これを割れても 108 円水準までであり、110 円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日にドル/円は108円13銭まで下落しました。

急速に円高に振れた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

しかし、北朝鮮問題は長期化の様相となり、初めての日米経済対話を無難に乗り切ったことで、市場の目は米国の良好な経済指標やトランプ政権の税制改革への期待へと移り110円を回復する動きとなりました。

さらに、108円割れを回避できたことで、ドルの底打ち感が出て、東京がゴールデンウィーク明けには114円台を回復するまで上昇しました。

ドル/円相場のトレード戦略

堅調な経済指標を受けて米国の6月利上げ期待が高まってきたことなどがドルを下支えすることが期待されますが、北朝鮮によるミサイル発射など地政学リスクは燻り続けており、115円水準を一気に抜けていくには新たな材料が必要でしょう。

また、トランプ大統領の経済政策の大幅遅延が懸念されることもドルの上値を抑える要因となりそうです。

■ 短期展望

先週は、フランス大統領選でマクロン氏が次期大統領に決まったことで欧州の政治リスクが後退し、これを好感してドル/円も114円37銭まで上昇しました。

しかし、修後半では北朝鮮が核実験やICBMの発射実験を実施するとの報道でドルが反落し、週末には4月米小売売上高と4月米消費者物価指数が、いずれも予想を下回ったことを嫌気して113円台前半まで下押し動きとなりました。

今週は、注目度の高い米経済指標の発表もなく、手がかり材料難で、112円～115円のレンジの中で、方向感のない動きが予想されます。

市場では米国の6月利上げを織り込んでおり、これがドルの下値を支える一方、北朝鮮リスクがドルの上値を抑えることになりそうです。